

夫たち、妻を愛しなさい
エペソ人への手紙 5 章 25 節から 33 節
JD ファラグ牧師

「エペソ人への手紙 5 章 25 節から 33 節です。可能ならご起立いただき、私の読む個所を付いてきてください。ご無理なら、座ったままでも結構です。25 節から、聖霊によって使徒パウロが書いています。

—エペソ 5:25—

夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自分を献げられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。

—エペソ 5:26—

キリストがそうされたのは、御言葉により、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、

—エペソ 5:27—

ご自分で、しみや、しわや、そのようなものが何一つない、聖なるもの、傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。

—エペソ 5:28—

同様に夫たちも、自分の妻を自分のからだのように愛さなければなりません。自分の妻を愛する人は自分自身を愛しているのです。

—エペソ 5:29—

いまだかつて自分の身を憎んだ人はいません。むしろ、それを養い育てます。キリストも教会に対してそのようになさるのです。

—エペソ 5:30—

私たちはキリストのからだの部分だからです。

—エペソ 5:31—

「それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。」

ところでこれは、興味深い御言葉です。翻訳によっては、“くっつく”という単語が使われていて、“溶接する”という意味を含みます。どうです？「ふたりは一体となるのである。」

—エペソ 5:32—

この奥義は偉大です。私は、キリストと教会を指して言っているのです。

—エペソ 5:33—

それはそれとして、あなたがたもそれぞれ、自分の妻を自分と同じように愛しなさい。 ...

ここまでは全て夫に対してです。それからパウロは、妻に対しても言います。

...妻もまた、自分の夫を敬いなさい。

それだけです。それが彼が妻に対して言う全てで『夫を尊敬しなさい。』 これだけで一目瞭然です。

では祈りで、締めくくりましょう。—(笑)—

ダメ？ では、祈りましょう。

愛する天のお父様。特に、今日私たちの前にある箇所の御言葉の真理を正しく正確に分けられるよう、あなたが私を助けてくださいますか？ 主よ、いつもご忠実であられる通り、あなただけがお出来るようになるように、あなたの教会、あなたの民の私たちが、御言葉を理解できるよう祝福して下さいますよう

に。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

ご着席ください。ありがとうございます。私の妻が言ったのですが、皆さんなぜ笑うのです？
まだ妻が何と言ったか言ってませんよ。妻は、これをいくつか分けてシリーズ化して、夫が妻を愛することを教えるのがいいと提案しました。私は単純に言いました。

「そんな必要ないよ。私たちがするのは...」

いやいや、このようにしましょうね。夫の皆さんおられますか？ 帰ることはできません！ 警備がフロントドアをロックするので神がご用意されておられることを終えるまでは出られません！ この聖句箇所は、結婚式をする際の私のお決まり箇所、私がこれを選ぶ理由は、夫が妻を愛することに重きを置く言わば、私たち夫の責務だからで、結婚式の間、パウロが夫に9節の中で3度、妻を愛するよう言っているのを指摘したいからです。で、パウロは、、、、私は数えたのですが、妻には7語で言います。それも、節の中のほんの半分で、彼は夫にこの全てを言った後、妻には、夫を尊敬するように言います。ですから感謝すべきは、夫として私たちへ聖霊によってパウロが、妻を愛する方法の説明をしていて、そしてたぶんもっと重要なのは、どのように妻を愛するのかを説明しているのです。

まず初めに、夫として私たちが妻を愛すべき方法。妻を愛する方法を完全に理解すると、妻を愛することが不可能なのを理由に、私たちが”どうやってか”に駆り立てます。これは私たち自身の、私たち自身の中での方法です。なぜかを説明しましょう。パウロが愛について使う単語は、ギリシャ語で「AGAPE/アガペ」です。新約聖書原語のギリシャ語には愛に4種類の単語があって、それがその内の1つです。英語では1種しかありません。LOVE/愛だけです。でもギリシャ語では4単語があり、1つ目が“エロス”。英語のエロティックの語源です。これは肉体的な愛、官能的な愛、性的な愛の単語です。

2つ目は、“ストルゲ”

これは子どもが親に、また親が子どもにもつ自然な思いの愛です。違う種類の愛ですね。

“愛”のための3つ目の単語は、“フィリア”

これは兄弟愛で、兄弟愛の町、フィラデルフィアの町の名称になったのですが、互いに対する愛です。英語で私たちが言う「兄弟を愛する、妻を愛する、子どもたちを愛する。」にあたり、区別はありません。違いがあるのはわかると思います。ギリシャ語で言うと「妻を官能的に愛する。兄弟を兄弟愛で愛する。子どもたちを自然な思いで愛する。」となり、そうして“アガペ”になると、“アガペ”を言う時というのは“無条件の愛”だと分かります。これは神が私たちに対して、私たちがまだ罪びとだった時に愛して下さった愛で、

「神は実に、そのひとり子をお与えになったほどに、私たちに愛して下さった。」

(ヨハネ3:16参照)

これが無条件の愛で、前提条件はなく、何の前提もありません。何があってもただ無条件の愛なのです。さてここで問題です。私たちは、“アガペ”の愛を理解するとき、これは到底達成できない愛と考えがちです。しかし真理は、これは夫たちに達成出来る愛である、という事。その理由は、これは、使徒ヨハネが、この世とこの世のものに人が持てる愛で使っているのと同じ単語です。

「第一ヨハネの手紙2章15節から17節」を読みます。

—I ヨハネ 2:15—

「あなたがたは世も世にあるものも、愛してはいけません。... (なんとっ！これが”アガペ”の愛です。)

あなたがたは世も世にあるものも、(アガペで)愛してはいけません。

...もしだれかが世を愛しているなら、その人のうちに御父の愛はありません。

—I ヨハネ 2:16—

すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢は、御父から出るものではなく、世から出るものだからです。

—I ヨハネ 2:17—

世と、世の欲は過ぎ去ります。しかし、神のみこころを行う者は永遠に生き続けます。

この“アガペ”は、ヨハネが使っただけでなく、救世主ご自身も使われました。「ヨハネの福音書3章」、聖書でもっとも有名な箇所の一つです。ヨハネの福音書3章16節、

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。」イエスは続けて仰います。

—ヨハネ 3:18—

御子を信じる者はさばかれぬ。信じない者はすでにさばかれている。神のひとり子の名を信じなかったからである。

—ヨハネ 3:19—

そのさばきとは、光が世に来ているのに、自分の行いが悪いために、“人々が光よりも闇を愛 (アガペ) した”ことである。”

では、なぜ私はこれを指摘するのか？ 理由は、一緒に考えてみてください。私たちが、この種の愛を、世とこの世のものに対して持てるなら、妻を愛する時に、この種の愛を持てるという意味です。しかしながら、聖霊がなければ、夫はこのように妻を愛せる望みはありません。これが、文脈が最も重要な理由で、理解すべきは、パウロが話しているのは、聖霊に満たされることです。これは聖霊で満たされる事、言わば、聖霊の洗礼を受ける事をパウロは示していて、数週間前に話しましたね。それこそが、彼が言い、行い、建て上げるあらゆることからの基礎的原則と真理です。なのでもう一度、私が言うのに飽き飽きしないでほしいのですが、夫として、聖霊に満たされていないなら、このように妻を愛せるという望みは、全くありません。私たちがどれだけ必死で頑張っても、それはあり得ません。聖霊が私たちに御力を与え、このように妻を愛せるように下さらないと。実際、これがその方法です。私たちが、この方法を理解した時、私たちの前にあるこの聖句をもっと取り組めます。なぜならパウロは、妻を愛するため、3つの方法=違った方法を、夫に語ります。第一に、キリストが教会を愛し、教会のためにご自身を献げたように妻を愛する。面白いのが、私は結婚式をする時、新郎をちょっと困らせます。私がこの聖句を伝えて、それについてコメントしながら解説している間、新郎はただ彼の美しい新婦を見つめていて、新婦も彼の目を見つめていて・・・私は彼を見て言います。「私を見なさい！」彼が私を見たら「聞きなさい！」と言い、彼が聞くと、「どうやってそんな風に彼女を愛するのですか？」と尋ねます。

「これは結構難しい命令ですよ？ キリストが教会を愛したように？ 教会にご自身を献げたように？ あなたはどのようにそうやって愛しますか？」

最近ノースショアで、一人の新郎が私を見て言いました。

「私はそうやって彼女を本当に愛します！！」「お～まあ～どうやって？」どうやってかは「聖霊」です。聖霊のご方法によって、私たちが聖なる御言葉が実行できるようになさると言われています。それが、私たちに可能にする唯一の方法です。キリストは、どのように教会を愛しておられますか？

そう、誰かのためにいのちを捨てる以上に偉大な愛はありませんね？ (ヨハネ 15:13 参照)

イエスはご自分の教会を大事に想い、ご自分の教会を愛し、ご自分の教会のためにご自身を献げた。これがパウロの語る、夫として妻を愛することなのです。次にパウロは、自分の体を愛するように、妻を愛しなさいと言います。わお～！ 私は、そんな風にする人にまだ会ったことはありません。歩いていて、窓に映る自分を見ると、自分に吸い込まれるように自分を見て、また写真をとって人に見せたりとか、誰かをタグしたりして、まずは自分が自身を見入っている。そして自分がどう写っているか、チェックしていませんか？でしょ？ 皆さん、私たちは自分の体は大切にしますよ。私たちは、自分の体を服でまとい...それを神に感謝します。朝起きて鏡をみる。髪を整え、そこにあるべきじゃないヒゲを剃る。前はもっとあった髪が減ったのを嘆く。つまり、自分の体を大切に、体をいたわり、養います。特に、この養うという分野。私たちは体に栄養を与えます。特に、プライムリブが出て来た時にはね。イエスの御名の下に・・・それが、イエスが、夫として、私たちにしよう求めておられるのです。これが、パウロが、私たちに、私たちが愛して大事にする自分の体のように、妻にするよう勧めていることです。

そして3つ目は、この両方が合わさったようなもので、私たちが自分自身を愛するように、妻を愛すること。その意味は？ ええ、最も偉大なる戒めではないですか？ 全ての律法を要約するのが、心を尽くし、魂を尽くし、思い、力の全てで神を愛することで、そして隣人を、自分自身のように愛すること。でも私はそれ以上の意味があると思います。その意味を説明します。妻が愛される事によって、益があるのは夫ですよ？ 自分を愛するように妻を愛するだけでなく、自分を愛するなら、自分を愛するからこそ妻を愛する。言い換えれば、もしあなたが、妻をこのように愛するなら、どうなると思いますか？ 「妻が幸せなら人生幸せ。」または、ある人が言ったように、「ママが幸せでないなら誰も幸せではない。」違いますか？妻がこのように愛されると、受益するのは夫ではありませんか？これは、神が造られた最高の結婚のご設計だと思います。私たちが、私たち自身を愛するなら、私たちは、妻たちを愛するべきです。私たちはその愛の受益者なのです。私たちがそのように妻を愛する時、妻がどう反応するか。神が、妻たちをそのように設計されたのです。では、私がわかるのは、これは単純すぎるかもしれませんが、私の信念で、また美しい妻との結婚30年の、私個人の経験でもあります。彼女は第二礼拝に来ないので、好きな事が言えます。皆さん、実際近づきたいなら、、、いや近づかないでください。

妻に言いました。「ハニー♥気分はどう？今日は必要ないし、教会に来なくていいよ。」彼女は言いました。「いいえ！！私は行くわ！行くわよ！」とにかく、私の長年の経験から、夫が妻をそのように愛すると、数々の結婚の問題が減っていきます。バカげて聞こえるでしょうが、本当です。結婚の全問題と言っているのではなく、さあ、正直になりましょうよ？ 完全な結婚などはない。だけど、本当に素晴らしい結婚生活が送れます。これらの問題というのは、言わば大抵一般的にその周辺の事で、全ての表面を剥がせば、その大元、神が妻を愛するようご設計された、その方法で、夫が妻を愛していないのです。ですから、神がその妻に意図されたように、妻が夫に応じることができないのです。それは良い結婚ではありません。大変悪い結婚です。一事が万事、悲しいことに、ご存知”離婚”です。さあいいですか？正直になりましょう。ここで真剣になりましょう。クリスチャンの結婚に関する統計は、ノンクリスチャンの統計と正に同じです。その話はしたくはありませんが、非常に心が痛みます。留意してください。言い方はマズいですが、これは、サタンの要素です。サタンが結婚を憎んでいるからです。なぜサタンは結婚を憎んでいるのか？結婚が示すのは、私たちの花婿イエス・キリストと、私たちキリストの花嫁の縮図だからです。私たちはキリストの花嫁です。だからサタンは、結婚が意味することのために、結婚を憎んでいます。そして再度、同じことを違った方法で言います。今日あなたは、ここにご自分の結婚の問題を持っ

て来られた。私があなたに言いたいのは、謙虚に言います。あなたが夫としてこの方法で妻を愛するなら、それらの問題は無くせます。その責任はあなたにあります。今からもっとお話しします。そう、このような方法で妻が愛されるなら、彼女は従順になり、夫を尊敬するようになります。なぜならもう一度言いますが、このような言い方を許してください。でも、神が妻をそのように設計されたのです。彼女がそうやって応えるように、神が彼女をそう造られたのです。しかし問題があります。注意して聞いてください。私は本当にこれを熟考しましたし、言い替えると、ここに、その問題があります。

夫は言います。「妻が自分を尊敬するまで、妻を愛さない！」なるほど。そのやり方で皆さんどうですか？手を上げなくて結構ですよ。どうなっているかもわかりますので。私がそうやっていたのです。そう、夫の皆さんは言う。「彼女が私を尊敬するまでは、彼女を愛さない！」でも妻は言う。「彼が私を愛するまで尊敬しない！」お～、それが問題なのです。それが何かを言いましょ。「プライド」です。「プライド」です。愛を込めて言わせて頂きますが、私自身が苦労してこれを学んだのです。それを証明する傷跡もあります。ええ、第二礼拝で、聞きたいなら、私の妻に聞いて頂いてもいいです。それがプライドで、プライドが、結婚というものの前に来ると二人を離してしまいます。自分で次の章を書く事になります。

OK。問題は、夫の皆さん、私たちの言い方って、「私がこの家の長だ！この家でズボンを履いているのは私だ。妻がどのズボンを履くかを言わなくてもね！ 私が頭だ。彼女は、どっちを向くかを言う首ですらない。私が家の中心だ！彼女は何らかを尊敬をするべきだ！私がリーダーだ！」

いいでしょう。では、あなたがリーダーなら、まず先に謙虚になったらどうですか？ そう、あなたが他の全てにリードしたいならたぶんリーダーとして、例えたら、霊的リーダーとして導くのなら、謙虚になりなさい。それがどう見えますか？ ここに結婚の争いがあるのですよ。あなたが主張し、叫び、そうではないのを望みますが、それは良くありません。夫の皆さん、どう見えるか。私は男同士で率直に言いますね。あなたが奥さんに言う喧嘩や争いの熱が、何をひき起こしますか。謙虚になって言うのです。

「私が間違っている、君が正しい。」と。妻の最初の反応は、「何て？ちょっと待って。何て？何かのトリック？何の意味？」「そうじゃなく、君が正しい。」あなたがリードする事で、奥さんがそこに辿り着く前に、あなたが十字架に行くのです。いいですね？ 私が結婚について教えていたあるとき、私は「自分がいつも妻より先(beat)に」と口にして息継ぎのタイミングがまずかった事に気づきました。みんなが恐ろしい形相で私を見たのです。「彼は奥さんを叩いていた(beat)？」私は「いつも妻より先(beat)に十字架に行っていた！」と言おうとして、そこで息継ぎをしてしまったのです。私は、妻に先を越されたくなかった。それは良いことではないから。私が十字架へ導きたいのです。自分が謙虚になって。

”箴言”に、これがはっきり書いてあります。

「高ぶりが来れば、辱めも来る。知恵はへりくだる者とともにある。」(箴言 11:2)

おぉ。。私たちは夫としてどれだけ傲慢で愚かでしょうか。もう一度言いますが、夫の皆さん、その責任は私たちですね。謙虚になってください。

では結論です。もしも夫がキリストが教会を愛したように、妻を愛し、霊的リーダーとして妻のために自分を献げ、御言葉によって妻を聖なるもの傷のないものとするなら・・・この御言葉は、元の言語は、Rhema/レーマ=神の語られる御言葉です。 Logos/ロゴス=書かれている御言葉で、レーマは、神の語られる御言葉です。考えてみてください。それが、霊的リーダーの私たちが発する言葉、私たちの結婚で、私たちの会話で、神の御言葉を顕著にするのです。神の御言葉の方法によって、清めと浄化があり、また御言葉が覆ってくれます。霊的覆い(カバー)であり、私たちが妻をカバーし、私たちが愛したり、ケア

したり、自分自身の体に必要なものを提供する同じ方法で妻を愛し、私たちの人生で妻を、主の次に大切にするので。

「牧師さん、どこでそれが分かりますか？」お～「離れて、結び合う。」です。言い換えるとは、Leave/離れてというのは、、、中東で特に当時、父親は子どもの人生で、最終的な権限があります。たとえ成人した子どもであってもです。なので、彼らが結婚するとき、両父親と母親から、その両親の権限の下から”離れ”なければなりません。なぜなら、両親を含む他の誰との人間関係の重要性に取って代わり、妻と結び合うのです。これについて、さっと言いましょ。牧師として、結婚カウンセリングをして得た一つですが、その夫が言うには、

「ゴルフにもいけないし、これもあれも出来ない。妻が、私と十分に時間を過ごしていないと言うのです。」この箇所から教えてきたことの一つは、彼女が、あなたの人生で、一番大事なのが自分だと分かって守られているなら、あなたがしたいことをさせるでしょう。彼女は安全に守られていて分かっています。自分の立ち位置を分かり、どんなに大事にされているかが分かります。もし守られていないなら、彼女は、あなたが自分から離れ、時間をどう過ごすのか辛くなります。しかしそれが順序であり、あなたが彼女を大事にする、自分の人生で一番大事な人にすれば、彼女は安心します。ですから、私たちが自分自身を愛するように私たちが自分自身を愛するが故に、妻を愛し、妻に重きを置くのです。そうすれば、妻は抵抗できず、喜んで私たちに従順になり、私たちに尊敬するようになります。これはまず、私たちが妻をどう愛するか、に、比例します。それが妻たちの反応です。私が「抵抗できない」の単語を使ったのは、もう一度言いますが、神が妻をそのように設計されたからです。

もう一度、謙虚に言いたいのが、そのようにするかしないかで、結婚が違ったものになります。地上の地獄か、地上の天国か、です。全く違うものになります。もう一度言いますが、これを導く責任は夫にあります。ある話で締めくくりたいと思います。1980年代に初めて聞いたもので、「夫が妻を愛するこの愛について」の美しい例えの実例です。

題名「Jonny Lingos Eight Cow Wife/ジョニー・リンゴ、牛8頭分の妻」

1988年のものはダイジェスト版で、原作はパトリシア・マクッガーが1965年に書きました。

『太平洋キニワタ島へ向かった旅は、忘れられないものである。その島は美しく、楽しい時間と出来事、旅の中で最も記憶にあるのが、ジョニー・リンゴが、妻の為に8頭の牛を差し出したことである。私は、女性が夫を見くびったり、妻が夫を軽蔑するのを見るたびに、それを思い出す。そういう人たちには、ジョニー・リンゴが妻の為に、8頭の牛を差し出した理由を知るべきだと言いたい。ジョニー・リンゴは、島中に、才能と聡明さと知性あることで知られていた。ガイドで彼を雇えば、最高の釣りスポットに連れて行くし、真珠が取れる最高の場所に案内する。またジョニーは、その島で最も仕事ができる一人でもある。彼は、最高の取引を成立させることが出来た。キニワタ島の人々は全員、ジョニー・リンゴのことを良く言うし、彼のことを話すときは、いつも少し嘲笑する。私がキニワタ島に到着して2～3日後、ゲストハウスのマネージャーのところへ行き、良い釣りのポイントが分かるガイドは誰かを聞くとマネージャーは言った。

「ジョニー・リンゴだ！彼が最高だ！買い物に行っても、交渉させたらどんなに上手いか！少年を野次っても、少年は笑いで返して、ジョニーは取引成立させるのが上手い！と言うよ。」

なんだろう！誰もが私に、ジョニー・リンゴに会うように言うし、その上彼らは笑い出すのだ。

「私にその笑いの訳を話してください。」と言うと、マネージャーは肩をすくめながら言った。「みんな笑

いたいのさ。ジョニーは、島で一番聡明で強い若者なんだ。彼はあの年齢で最高にお金があるしね。」でもそう言うのに、なぜ誰もが影で彼を笑うのかを聞いてみた。

「あぁ一つだけ。5か月前の秋の祭りで、ジョニーはキニワタ島に来て妻を見つけた。彼は、その父親に牛8頭を渡したんだ。私は島の習慣を良く知っているけど、2～3頭の牛でまずまずの妻、4～5頭なら大変素晴らしい妻を得られる。」

私は「凄い！牛8頭！ その女性は息を呑むほど美しいんだろうね。」と言った。「彼女は醜くはないさ。」とマネージャーは少し笑いながら言った。「でもわかりやすく言うと、お世辞だ。」「何だって？」

「事実、彼女の父親サム・カルーは、困惑する代わりに、結婚がダメになるのを恐れているんだ。8頭の牛を、娘にもらったんだから。やりすぎではないけど、あれほど払われたことなんてないよ。ジョニーの妻は、普通の質素な女というか、いや、彼女が普通だということがお世辞だと言っておくよ。彼女はさ、やせっぽちで、肩を丸めて歩く。頭は背けて、自分の影を恐れているのさ。まあ言わば、真実の愛への支払いではないと思うね。」

島民が、ジョニーについて話すときに笑うのが良く分かった。島一番のかしこい仕事人が、冴えない老人サム・カルーに負けたという事実からの特異な満足感だ。しかし、誰も知らない。みんな不思議に思っている。全てのいとこたちがサムに促した。

「ジョニーが1頭しか払わないと分かるまで3頭か、2頭を我慢しろ。」彼らを驚かせたのは、ジョニーがサム・カルーのところへやって来て、「サリタのお父さん、私は、お嬢さんに牛8頭を支払います。」と提案したこと。「牛8頭だって！！」私はジョニー・リンゴに会いたくなかった。釣りはしたいし、真珠も欲しい。だから翌日の午後、ジョニーの家があるヌラバンディ島に行った。ジョニーの隣人も、彼の名前を言うと、面白がっていた。痩せた真面目そうな若い男に会って、なぜ皆が彼の才能を尊敬するのがすぐ分かった。しかし、彼について私の混乱を増したのが、彼の家で座ると彼がこう聞いた時だ。

「あなたは、キニワタ島から来たのですか？」そうです。「彼らは私のことを話したでしょう？」はい。彼らは、あなたが、私に必要なものを何でも提供できるし、あなたは聡明で、臨機応変に対応できる人で、島一番の賢い仕事人だと言っています。彼は優しく微笑んで言った。「私の妻は、キニワタ島出身です。」

「はい。知っています。」「彼らは妻のことを話していますか？」「少しは。」「彼らは何と言っていますか？」なぜこの質問が私に来たのか…「彼らは、あなたが秋祭りに結婚した、と言っていました。」「他には？」彼のまつ毛の動かし方が私に訴えた。「他に何か言われているのを知っているぞ。」「島民は、結婚成立が8頭の牛だったとも言っていました。」私は間を置いた。彼らはそれがなぜかを不思議がっている。

「彼らはそれを聞きましたか？」彼の瞳が喜びに輝いた。「キニワタの誰もが、牛8頭について知っている。」私は頷いた。「ヌラバンディでも皆がそれを知っている。」彼の胸が満足感で膨らんだ。

「いつもこれからも、彼らが結婚成立について話すとき、ジョニー・リンゴが、サリタの為に、牛8頭支払ったことは、忘れられないでしょう。」「あぁそうだ。それが答え、虚栄心だ。」と思ったその時、サリタがテーブルに花を飾るため、部屋に入ってきた。彼女は夫に微笑むため、しばらく立たずみ、そして出て行った。彼女は、私が見たこともないほど最高に美しい女性だった。肩がしゃんとして、顎をあげ、瞳は輝き、すべてが自信と誇りに満ち溢れていた。傲慢や横暴な誇りではなく、彼女のあらゆる行動から発する、自信に満ちた内面の美しさである。私はジョニーの方を向くと、彼が私を見ているのが分かった。

「あなたは彼女を認めますか？」「か、か、彼女は、ゴージャス！ 皆が話している人ではない！あなたがキニワタで結婚したサリタではない！！」と私は言った。

「サリタは一人だけです。あなたがたぶん考えていたように彼女は見えない。」

「見えません。私は彼女が不細工だと聞いていました。彼らは、あなたを面白がって、あなたが自分で自分をサム・クルーに騙されるようにしたと聞いていました。」「あなたは牛8頭が多すぎると思いますか？」ジョニーから微笑みが口元からなくなった。「いいえ。でも彼女は、皆が言っていた彼女と、なぜそんなに違うのですか？」

ジョニーが言った。「自分のために、夫になる人が、非常に低い持参金を払ったのを知ると、女性がどう感じるか考えてみてください。夫になる人が、自分にはほとんど価値がないようなことをしたと知るのは屈辱です。他の女性は、夫が高い持参金を払ったと誇りに思うのを、彼女がどう感じるか。彼女は当惑するでしょう。そんなことが、私のサリタに起こらないようにしたのです。」

「ではあなたは奥様を幸せにするため、8頭の牛を払ったのですか？」「もちろん。私はサリタを幸せにしたい。でもそれ以上のことがあります。あなたは、あなたが思っていたのと彼女は違うと言った。その通りです。多くのことが女性を変えます。内面に起こることや、外で起こること。しかし、一番問題なのは、彼女が自分自身をどう見せるか、です。キニワタで、サリタは、自分には価値がないと思っていた。自分が考えた価値の結果としてね。今、彼女は島のどの女性よりも自分に価値があると分かっています。そう見えますね？」「そしたらあなたは...？」「私はサリタと結婚したかった！ 彼女は私が愛する唯一の女性です。でも、」私が、ようやく理解し始めたとき、「でも、、、」彼は優しく言い終えた。「私は牛8頭の価値の妻が欲しかった。」

夫の皆さん。よろしいですね？ あなたの奥さんは、牛何頭分ですか？ 気をつけてくださいよ。というのも、恐ろしい結果になりかねませんから。それは賜物です。私は、今日皆さんの前で、不要に霊的ぶったり、自慢しませんが、私には少なく見ても牛8頭分、それ以上の妻がいます。皆さんはいかがですか？ 祈りましょう。

天のお父様。あなたの御言葉、夫として私たちへのこの御言葉に感謝します。あなただけがお出来になるように、あなたが私たちを聖霊で新しく新たに満たし、私たちが妻をこのように愛するのを可能にしてくださいように。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7